

平成 23 年度

河川名	地点	水素イオン濃度 PH		生物化学的酸素要求量 BOD		浮遊物質 SS		溶存酸素量 DO					
		月	年平均	月	年平均	月	年平均	月	年平均				
神田川	久保前橋	5	7.9	7.9	5	2.3	1.3	5	4	4.3	5	8.6	10.1
		9	7.9		9	1.1		9	2		9	8.7	
		11	8.2		11	0.6		11	4		11	11.1	
		2	7.6		2	1.3		2	7		2	12.0	
	高戸橋	5	7.0	7.1	5	3.9	5.7	5	<1	2.5	5	7.5	8.2
		9	7.2		9	1.0		9	<1		9	8.1	
		11	7.1		11	0.8		11	<1		11	8.2	
		2	6.9		2	17		2	7		2	9.0	
妙正寺川	四村橋	5	7.9	7.5	5	2.4	1.4	5	2	1.3	5	8.2	8.8
		9	7.4		9	1.0		9	1		9	7.7	
		11	7.5		11	0.5		11	<1		11	8.9	
		2	7.1		2	1.7		2	1		2	10.2	

## 各項目の解説

### 水素イオン濃度 (PH)

水の酸性、アルカリ性を示す指標。0から14の間の数値で表現されています。PHの数値が7だと中性、7から小さくなるほど酸性が強く、7から大きくなるとアルカリ性が強いことを表しています。

環境基準 6.5～8.5(C類型)

### 生物化学的酸素要求量 (BOD)

微生物が水中の汚れ(有機物)を食べる(酸化分析)時に必要とされる酸素の量をもって表したものです。値が大きくなるほど河川が汚れているということを表しています。

環境基準 5mg/l以下(C類型)

### 浮遊物質 (SS)

水中に浮遊している不溶性の物質。水の濁りの原因となる。光の透過を妨げ、河底に堆積すると河底の生物にも悪影響を及ぼします。

環境基準 50mg/l 以下

### 溶存酸素量 (DO)

水中に溶解している酸素の量です。1気圧のもとで20度の清水には約9mg/lの酸素が溶け込みます。気圧、水温などによっても数値は変動します。また、日中、水中植物の光合成が行われるとDOは高くなります。

環境基準 5mg/l以上(C類型)